

平成 17 年 9 月 5 日

## 「情報活用基礎」の実施体制について

情報科学科目専門委員会

本学の情報リテラシー教育として、情報科学科目「情報活用基礎」がある。この科目は、平成 8 年度の「鹿児島大学の新しい教育」に伴って開講された情報科学科目の一科目であり、ほとんどの学部・学科で開講されており(法文学部経済情報学科は除く)、教職科目「情報機器の操作」にも指定されている科目である。今般の非常勤講師の削減、「情報活用基礎」の開講は各学部で実施責任を負うこと(平成 17 年 1 月教育センター会議承認)などに伴い、「情報活用基礎」の全学的な実施体制を見直すこととした。

### I 担当教員グループの構成

「情報活用基礎」が円滑に実施できるように、担当教員グループを構成する。担当教員グループは鹿児島大学専任の教員から構成され、次の教員が入るものとする。

1. 現在「情報活用基礎」を担当している教員
2. 現在「情報活用基礎」を担当していないが、担当可能な教員
3. 情報科学科目専門委員会の委員

なお、2.の教員は、本人の申し出や他教員の推薦によるものとする。また、担当教員グループに登録したことで、必ず「情報活用基礎」を担当しなければならないということではなく、教員個人の教育や研究などの都合により担当しない場合もある。

### II 「情報活用基礎」の実施体制

多くの教員が担当教員グループに登録してもらうため、全学的に広く応募し、担当教員グループを人的に充実させることと、担当教員グループからの円滑な支援が行われることが重要である。

「情報活用基礎」を開講する場合、次の3段階で担当教員を調整し決定する。

1. 原則として、自分の学部学科内の専任教員が担当できないか調整する。
2. 1.で適当な専任教員がない場合、担当教員グループ内で担当できる教員を調整する。
3. それでも調整できない場合には、非常勤の教員を学部の経費で依頼する。

また、2.において、担当教員グループからの円滑な協力体制の確立のためには、完全なボランティアでの依頼は支援が困難なことが予想される。そのため、担当教員グループ内の専任教員が部局を超えて他学部の「情報活用基礎」を担当した場合、当該教員へは予算的な措置、すなわち、開講している学部から当該教員へ研究費として1コマ5万円の予算移管を行うものとする。

### III その他

- ・ 次年度の「情報活用基礎」の開講についての必要事項(開講コマ数、担当教員、開講期・曜日・時限、TA数など)は、11月末までに決定する。
- ・ 自学部学科内の専任教員が「情報活用基礎」を担当できない場合は、情報科学科目専門委員会委員長が窓口となり担当教員グループと調整する。
- ・ 助手の教員が「情報活用基礎」を担当する場合は、開講学部の専任教員、あるいは、情報科学科目専門委員会委員の教員を担当教員としてシラバスや時間割に併記する。